

## 商業「簿記」各項目の評価規準

指導項目(大項目)	小項目	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1)簿記の原理	ア 簿記の概要 イ 簿記一巡の手続 ウ 会計帳簿	○資産・負債・純資産・収益・費用の種類、貸借対照表・損益計算書の構造や役割、財産法と損益法の仕組みを理解したか。 ○仕訳の手順と仕訳帳と総勘定元帳の意味を理解しているか。 ○試算表と精算表の意味と作成法を理解しているか。 ○決算の一連の手続きについて理解したか	○簿記を学ぶことの意義と必要性を考えている。 ○簿記の基礎概念として、資産・負債・純資産・収益・費用が何かを思考し、それぞれの区分を適切に判断し、適切に表現できる。 ○試算表と精算表を適切に作成できる。 ○各勘定を適切に締め切ることができる。	○企業の簿記の意義と役割を知り、簿記の学習に興味を示し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
(2)取引の記帳	ア 現金と預金 イ 債権・債務と有価証券 ウ 商品売買 エ 販売費と一般管理費 オ 固定資産 カ 個人企業の純資産と税金	○取引に関する基本的な内容とその記帳方法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。	○取引について、その記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現することができる。	○取引に関心を高め、その記帳処理の学習を主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
(3)決算	ア 決算整理 イ 財務諸表作成の基礎	○決算手続きの意味を理解し、8桁精算表の作成し、総勘定元帳の締め切りと繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成について基礎的・基本的な作成方法が身に付いたか。	○なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に表現できる。	○作成した会計帳簿や貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を把握しようと、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
(4)本支店会計	ア 本店・支店間取引と支店間取引 イ 財務諸表の合併	○本支店間の取引、支店相互間の取引などに関する基本的な内容を理解し、基礎的な技術を身に付けたか。 ○本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について基本的な内容を理解し、作成法を身に付けたか。	○本支店間の取引、支店相互間の取引について、その記録・計算・整理に関する問題の解決を目指して、自らの考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現することができる。	○本支店の貸借対照表と損益計算書の合併の手続きとその作成法に関心をもち、進んで取り組み、作成した貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を理解しようとしているか。
(5)記帳の効率化	ア 伝票の利用 イ 会計ソフトウェアの活用	○伝票の起票、集計・転記が適切にできるか。 ○取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解したか。	○ビジネスの諸活動について、記帳にどの帳簿または伝票を用いてよいかの判断ができる。	○伝票による取引の記帳法と集計転記に関心を高め、その記帳処理の学習を主体的かつ協働的に取り組もうとしている。